

第19回 フリートークの会

平成19年10月9日 出席者6名

Aさん はじめまして、よろしくお願ひ致します。私は8年前に手術しまして、手術した2年後に肝臓に転移しまして、次の年に骨に転移しまして、3年ほどは安定していたんですけど2年前に頭蓋骨に転移しまして、今は3週間に1回ハーセプチンとゼロダの飲み薬を飲んでます。今は症状が安定していますけれども、おかげさまでこういう機会に出て来させていただいて…。

Bさん でもすごいですよね、肝臓にきてて…。

院長 そうですね、今肝臓はもう大丈夫なんですか？

Aさん ええもう、肝臓に転移したのはもう7年前なんです。

院長 意外と肝臓に転移したのは大丈夫なんですよ。でも映っている影はなかなか無くならないんですよ。

Aさん 主治医の先生にも大丈夫だからって言われました。ただ完全に無くなるわけではないんですよ。

院長 無くならないですね、石灰化しているだけだから。ですから調べてみないと分からないんですけどね。でも調べるのは大変だから調べない場合がほとんどです。でも、大丈夫ですよ。肺に転移した場合だとちゃんと手当てしないと呼吸不全とか起こして大変ですけどね。

Cさん ちょっといいですか？ 私、去年の4月に頭蓋骨に転移したんですけど、放射線を6回くらい照射したんですね。そのあと画像とか撮ってないんですけど、広がってるのかということってないんですかね？

院長 それは～たぶん放射線の効果が出てくるのを当然待っているんでしょうけれども、身体を廻ってそこにたどり着いて根を生やしたからそこを狙って放射線をしたということでしょうね。

Cさん 放射線をやっていて思ったんですけど、どこかに他に出るといふこともありえますよね。

院長 う～ん、ゼロではないでしょうけどね、でもまあそうあちこちには行かないはずですよ。あまりそんなこと気にしていると心配になっちゃうでしょ？

Cさん 主治医の先生にね、再発したあと何年くらいこういう治療を続けないといけないんですか？って聞いたら、「わからん」って（笑）

院長 それはそうですね、わからないよね。乳がんの患者さんは意外と他のがんと違って、前立腺がんもそうなんですけどスパンが長いんですよ。だからそんなに急にあちこち行かないんですよ。だから大事なのは気持ち的なものですよ、そういう部分が大きい。

Cさん あげぼの会に来ると元気もらって来れるんで…。そう、誘っていただいてこちらのフリートークの会のお話は聞いてたんですけど、どうしようかな～って思ってた。乳がんじゃない人も連れて来ていいですか？

院長 いいですよ～。乳がんじゃなくてもいいよ、連れていらっしゃいよ。

Cさん お友達で子宮がんの人がいて…。

Bさん いいんだよ、子宮がんだって。

院長 婦人科のがんの病院ですからね ここは。

Cさん あ、そうなんですか？

院長 まあ肺がんの患者さんもいますしね。まあがんというのはそれぞれに違いはありますが、治療法はある程度同じだから、使うものが違いますけど。でも女性でも最近増えているのは大腸がんと肺がんですね。男性は肺がん、ところが男性は喫煙率は男性の方が多いいけど、止めていく率も高い。女性は少ないですね、かっこいいと思っているのかね。(笑)

Dさん 若い人多いですよね～。

Bさん ちっともかっこよくないのにね～。でも最近は禁煙ブームになってきたから住みやすいわ。

Dさん 空気がきれいになってきてね。先生、おタバコは？

院長 タバコはね、吸ってたんですよ、43まで。だから禁煙してもう25年くらい前？

Bさん 先生、今おいくつですか？ 68歳？ へ～っお若い。先生、退官されてどのくらいですか？

院長 2年半です。

前から皆さんにもよくお話したと思うんですが、千葉大学に20年くらいいて、こちらに来て20年くらいいて、合計40年くらい経って、退官して、女子大の講師の話なんかも頂いたんですけど、どうしようかな～って考えていてこのクリニックを始めたんですけど、それはやっぱり患者さんを治したいと、がん患者さんを本当に真剣にそれぞれに合った治療法があるはずだと。で、大学というのはどうしても画一的なんです。どうしても治験が入るから。そうすると患者さんにこっちとこっちの治療法とどっちがいいですかってくじ引きで選ばせて、いいかどうかではなくてくじ引きなんです。その結果が出たものが科学的に一番真実に近いものであろうというんですけどね。だけどそうすると2種類があるものを比べて、こっちとこっちで同じ治療をするわけでしょ？ そうすると2種類だけだから両方に合わない人もいますですよ。そうすると合わない人は弾き飛ばされてしまうわけですよ。それは無視されてしまうわけですよ。

Cさん 弾き飛ばされた人は何の治療法もないわけですよ。

院長 そうなっちゃう。だからある治療にはこういうものってあってコースが決まってる、例えばAという抗がん剤とBという抗がん剤を使って一般的には両方とも今までは同じくらい効果があるだろうと言われてきたと。じゃ本当に同じなのか比べましょうということになった。そうすると患者さんによってはAの薬に片寄ったり、医者によってはこっちの薬の方が使いやすい、こちらは嫌いだっていう好き嫌いが出てくるからくじで決めることになったんですよ。…あ、はい、ちょっと失礼、すみませんね。

副院長 何かお話ありましたか？

Eさん 私のお友達の話なんですけど、つい最近子宮がんのⅢ期って言われて、もう腹腔内まで広がって手術は出来ない状態なんですけど、今現在は放射線治療と腹腔内の抗がん剤治療をしなくちゃいけないって言われて、なかなか病院に行く機会がないらしくって、1週間に1回は通わなくちゃいけないんだけど、そんなこんなで1ヶ月くらい経っちゃってるんですけど、で、今は入院してるんですけど、退院したらこちらのクリニックを紹介したいなって思ってるんですけど。

副院長 そうですね、そういう場合は詳しい話を院長に聞いてみていただくと思うんですけど、結局子宮がんの治療というのは2本立てですよ、放射線か手術かということになると思うんですが、まあ放射線は後遺症が出る方もありますが、組織型にもよりますが放射線がよく効くんですよ。アメリカなんかだとよく使われていますよね。

Eさん ええ、放射線の治療はすごくよく効いて、調子がいいらしいんですよ。

副院長 そうでしょ、すごくいいみたいなんです。まあ当てる線量も決まっているわけだからそれ

をやって、終わって、あとは他にも考え方あると思うから、時間はありますからね、大丈夫ですよ。

Eさん その方は明るくてとても前向きなんですよ。その方67歳なんですけど、そんな年でも子宮頸がんになる可能性ってあるんですか？

副院長 ありますよ。

Eさん 子宮体がんならあるだろうなと思ったんですけど、子宮頸がんも。年は関係ない。

副院長 今は若い人が多いですけどね。今はヒューマンパピローマウィルスが原因だといわれていますけどワクチンが開発されているからだんだん減っていくとは思いますが、一度感染してしまうとね。でも、子宮頸がんの検査、皆さん受けているでしょ？

Eさん 乳がんになってから1回も受けてないんです。

副院長 どのくらいになるんですか？

Eさん 乳がんの手術してから9年目です。再発してからは7年目。

副院長 すごいじゃないですか。

Eさん 手術してから2年後に肝臓に転移しまして、そのときはラジオ波っていうので処置していただいたんですね。次の年に背骨の半ばに転移しましてこれを放射線で照射していただいて、落ちていたんですけど3年目に肝臓の95%に広がってるということで、またラジオ波で照射していただいて、今度は今年の4月頭の骨に転移しましてそれをまた放射線で治療しまして。現在はハーセプチンを3週間に1回とホルモン剤を。

副院長 一番最初は進行はどれくらいだったんですか？

Eさん えーと、ⅡかⅢって言われたんです。

副院長 あーじゃリンパ節転移があったんだ。

Eさん いえ、リンパ節には転移してなかったんです。

副院長 してなかった。組織型は？

Eさん 私もこの頃は不勉強でよく聞かなかったんですけど、ただステージはⅡからⅢって言われたんです。リンパ節転移はなかったんですけど、しこりは2.3cmあったんです。その頃の生活は、仕事はしてなかったんですけど、治療はタキソールとタキソテールとハーセプチンを1週間に1回やりました。

副院長 そのほかに生活に中で特に気をつけていたことってありますか？

Eさん いいえ、別に。まったく普段通りの生活していました。

副院長 そうですね、いや、同じくらいのステージの方でもすごく具合が悪くなっちゃう方と、あなたのようにね、普通に元気にいままでと変わらない生活を治療中でも続けられる方といいますよね。

Bさん 本当ですよ、すごいことよ。

副院長 ご本人は意識してらっしゃらないかもしれないけど、そういう風に元気に過ごせるコツとかね（笑）。でもそれって大事なことなんです。化学療法なんかは日進月歩ですしね、その

症状に応じて適切なものを使うということでもいいわけですけど、心の問題はそういうことではなかなか解決しない部分もありますよね。

Eさん 化学療法やっても気分悪くなったり吐いたりっていうことがないんです。治療終わってランチして買い物して帰ってくるんです。
今現在の治療はハーセプチンを3週間に1回やっています、まったく副作用がないので量的に少ないんじゃないのかなって不安になることもあるんですけど、どうなのでしょう？

院長 でも、それで問題ないでしょ？ 落ち着いてるでしょ？

Eさん はい、今は落ち着いているんですけど、今度検査なんでドキドキしているんですけど。

Bさん でも検査半年に1回なのでしょう？ いいよね。私なんか4週間に1回だもん。

Eさん 腫瘍マーカー？ 腫瘍マーカーは3ヶ月に1回やってる。

院長 腫瘍マーカーもね、補助診断ですからね。あんまり腫瘍マーカーにこだわってもね。

Bさん でも言われれば気になりますよ、先生。でも腫瘍マーカー当たってる場合もありますよね。

院長 それは新しく出来た場合は上がってきますよね。ある程度経っていて上がった状態で安定している場合もあるから。

Bさん 私の友達で、両肺に転移してるのにマーカー正常値っていう人がいるんですよ。

院長 あーそういう場合はあるでしょうね。

Bさん 私なんか片肺なのに何百も上がったのに。

院長 マーカーは当てにならないでしょう。腫瘍はマーカーを作っているという前提でやってるから。でもあまりマーカーを作っていない腫瘍もあるわけなんですよ。そうするとマーカーは上がらないんですよ。そういうこともある。

Eさん 私の友達のことなんですけど、子宮頸がんで3のBって言われたんですよ。で骨盤まで転移してるから手術が出来ない。放射線治療と抗がん剤治療とやっていて、今のところは落ち着いているんですけど、その方もねこのまま放射線治療と抗がん剤治療を続けていて大丈夫なのかなって不安を抱えています。

院長 子宮頸がんの場合は放射線が有効なんですよね。今の考え方としては放射線だけじゃなくて化学療法も一緒にやるというコンカレントラジオセラピーという考え方が結構流行ってるんです。同時に放射線と化学療法をやるっていうのが標準的な治療になってますよ。だから副作用が強く出ちゃう場合があるのでよく患者さんを診ながらやらないといけないんですけど、今は放射線も性能がよくなってきていますからね、昔と比べると。昔は放射線1本でやってたでしょ、だから腫瘍までの正常な組織までダメにしちゃってたけど、今は4本でやってるから4分の1でやるから正常な組織へのダメージが少なくて済みますよね。

Eさん あ、じゃそれが標準治療なんですね、分かりました、そう教えてあげよう。放射線でずいぶんよくなってきたって言ってましたので。